



「家庭クリスマス礼拝」のしおり

私たちのいのちの日々に、
インマヌエル、神が共におられます



教会へいらっしやいませんか

扉はいつも開かれています



クリスマス (Christmas) には
救い主 (Christ) のお誕生を喜び祝い、礼拝 (mas) します。

- ★ **教会学校 クリスマス礼拝** 12月13日(日) 午後 1:30~
- ★ **クリスマス礼拝** 12月20日(日) 午前 10:30~
- ★ **クリスマス・イヴ礼拝** 12月24日(木) 午後 7:30~
(聖書・讃美歌は、教会に用意があります)

* 新型コロナウイルスへの対応として、教会堂全体を常時換気しています。お出かけの際には暖かい服装のご準備を、またマスクの着用、手洗いをお願いいたします。体温を測るなど体調に気をつけてご出席ください。

礼拝から始まる新しい一年を **元旦礼拝** 2021年1月1日(金) 早朝 6:30~

日本キリスト教団
愛宕町教会

牧師 / 宍戸俊介
甲府市北口 3-4-23 TEL 055-253-3150
URL <http://www.atagomachi-kyoukai.org>



主イエス・キリスト 降誕

111

Adeste Fideles (Latin Hymn of 17th or 18th Century)

Anonymous, first appeared in Capella Divina, by John F. Wode, Lancaster, 1731

1100 かみのみこはこよーいしーもーレハ

1 神の御子は今聲しも
ベツレヘムに生れたもう。
いさや友よ、もろともに
いそぎゆきて拜ますや。

2 おとめマリア母として
生れまししみどりごは、
まことの神、きみの君、
いそぎゆきて拜ますや。

3 「神にさかえおれかしと、
みつかいらの声すなり。
地なる人もたえつづ
いそぎゆきて拜ますや。

4 としなえのみことばは
今ぞ人となりたもう。
待ち望みし主の民よ、
おのが幸をいわずや。

ルカ 2:15

112

主イエス・キリスト 降誕

Hark, the glad sound! the Saviour comes
Philip Doddridge, 1735

118 もろびとこそりてむかえまつれひ

1 さーしーくーまーちーにーしー主はきませーり 主ー
はきませ

2 諸人こそりてむかえまつれ、
久しく待ちにし主は来ませり、
主はきませり、主は、主はきませり。

3 この世の闇路を照らしたもう
たえなる光の主はきませり、
主はきませり、主は、主はきませり。

4 しほめる心の花を咲かせ、
めぐみの露おろす主はきませり、
主はきませり、主は、主はきませり。

5 平和のきみなるみ子をむかえ、
すくいのぬしとぞほめたたえよ、
ほめたたえよ、ほめ、ほめたたえよ。

ルカ 4:18,19

[101]

[101]

[88]



ご家族やご友人とのクリスマスの集いに 「家庭クリスマス礼拝」のひとときを！

クリスマスといえば、毎年、ご家族や友人たちと、あるいは一人で、それぞれ楽しんでおられることと思います。

でも中には、「クリスマスって、本当は何？」と思う方もおられるのではないのでしょうか。

クリスマス(Christmas)とは、キリスト(Christ)礼拝(mas)という意味です。愛宕町教会では、私たちの救い主イエス・キリストのお誕生を喜んで12月20日(日)午前10時30分からはクリスマス礼拝を、12月24日(木)午後7時30分からはクリスマス・イヴ礼拝をいたします。どうぞお気兼ねなく教会へお出かけください。

けれども、教会に出かけるのは…と戸惑われるかもしれません。そこで、ご家族やご友人とクリスマスの集いをなさる際にお使いいただけるように、「家庭クリスマス礼拝」のしお리를作りました。このプログラムは15分程度のもので、ろうそくの灯火の中で静かなひとときを持ち、クリスマスの本当の意味へと思いを馳せていただければと思います。



司会者 家庭礼拝を始めます。(用意があればろうそくに火をつけ、電灯を消します)
讃美歌 111番 神の御子は今宵しも(裏面をご覧ください。全員で歌いましょう)

聖書 マタイによる福音書 第1章18～25節(司会者が読みます)

¹⁸イエス・キリストの誕生の次第は次のようであった。母マリアはヨセフと婚約していたが、二人が一緒になる前に、聖霊によって身ごもっていることが明らかになった。¹⁹夫ヨセフは正しい人であったので、マリアのことを表ざたにするのを望まず、ひそかに縁を切ろうと決心した。

²⁰このように考えていると、主の天使が夢に現れて言った。「ダビデの子ヨセフ、恐れず妻マリアを迎え入れなさい。マリアの胎の子は聖霊によって宿ったのである。²¹マリアは男の子を産む。その子をイエスと名付けなさい。この子は自分の民を罪から救うからである。」²²このすべてのことが起こったのは、主が預言者を通して言われていたことが実現するためであった。²³「見よ、おとめが身ごもって男の子を産む。その名はインマヌエルと呼ばれる。」この名は、「神は我々と共におられる」という意味である。²⁴ヨセフは眠りから覚めると、主の天使が命じたとおりに、妻を迎え入れ、²⁵男の子が生まれるまでマリアと関係することはなかった。そして、その子をイエスと名付けた。

説教(どなたか、ゆっくり読んでください)

今年もクリスマスを迎えようとしています。しかし、今年のクリスマスは、例年と同じではないでしょう。わたしたちはこの一年、予想もしなかったような日々を過ごしたのではないのでしょうか。クリスマスは、イエス・キリストが生まれたことを祝う日です。この世に救い主キリストが生まれていて、神さまが地上に向けて手を差し伸べてくださった。だから、わたしたちは心から喜んで良いのだ、わたしたちは安心して良いのだ！と、去年のクリスマスの時、クリスマスのメッセージをお聞きになった方がいらっしゃるかも知れません。

けれども、それからの一年間、わたしたちはどんな風に過ごしてきたでしょうか。何か神さまの力を垣間見るようなことがあったでしょうか。あるいは、神さまからの救いの手が差し伸べられて、救われるような経験をなさったでしょうか？

聖書は、思いがけない事情をクリスマスについて述べています。ヨセフとマリアという一組の若いカップルが登場します。彼らは婚約していました。ところが、どうしたことでしょうか、二

人ともが知らないうちにマリアが身ごもってしまったのです。—聖書はそう述べています。

マリアが身ごもったことは、ヨセフにとって青天のへきれきであり、大変ショックなことでした。けれども、ヨセフはマリアに復讐しようとは考えませんでした。むしろ、事情がそのようになったのなら、自分が身を引いて、誰が相手かは分かりませんが、ひそかに離縁していたことにして、マリアが自分以外の男性と結婚できるような身の上にしてあげようと考えたのです。もちろんそれはヨセフには辛いことです。しかし、妊娠したマリアがユダヤの民衆から石をぶつけられて死んで行く様子を、ヨセフは見たくなかったのです。

ヨセフはマリアに対して精一杯の、痛いほど思いやりのある判断をしました。しかしそれで気持ちが晴れる訳ではありません。女性とその中に息づいている命を救うという点では正しくても、ヨセフの側は深く傷つきます。正しくあることと、傷を負わないこととは同じではありません。正しくあるため、また誰かを守るために傷を受けるということは、今日でもあり得ることです。

しかし、実はマリアもこの出来事では深く傷ついています。ヨセフから離縁されてもマリアに身を寄せる相手がいる訳ではありません。マリアは生まれてくる子どもを一人で育てなければなりません。当然、マリアも葛藤したに違いないのです。

ところがそこに、神さまが介入なさいます。神さまが天使を送ってヨセフに告げるのです。「恐れずにあなたのいいなづけの妻マリアを迎えなさい。彼女の胎内の子は、神さまの力により聖霊が働いて宿った神の子なのだ」と、そう教えます。危機を迎えている一組のカップルの上に起こっていることは神さまの出来事なのであり、神さまが二人を用いて新しい始まりを用意しておられることを信じて良い、だから「恐れず妻マリアを迎え入れなさい」と、天使はヨセフに告げました。

そしてまた、ここに生まれてくる子どもが、すべての人々を救う救い主となるのだ、とも語られています。ここに生まれてくる子ども(イエスさま)を通して、神さまが常に共にいてくださり、どんなに困難に思える時も、新しい始まりを備え、すべての罪をゆるし、慰め、支え、元気づけてくださるからです。

クリスマスのメッセージの中心には「インマヌエル」(神さまがわたしたちと共にいてくださる)という事柄があります。暴君が支配し、伝染病が蔓延し、生活が行き詰まり、人間が疲れ、深く傷ついているさなか、今、この時に、神さまが、そういう一人ひとりと共にいて、それでも生きて行ける勇気を与えようとしてくださいます。あなたのために、あなたを救うために、神の子がお生まれになりました。あなたのすべての重荷をになってくださる方が、今、あなたと共におられます。

お祈り(司会者がゆっくり読んでください)

天の神さま、わたしたちは今年、まったく予想もしなかったような中を過ごしてきました。本当に不自由な生活を過ごし、そのために疲れ、傷つき、行き詰りを感じる時もあります。でもあなたは、わたしたち人間の営みに、痛みや嘆き悲しみが多くあることをご存じです。わたしたちの疲れや破れもご存じで、そんなわたしたちのために、救い主としてイエスさまをお与えくださいました。

イエスさまがこの世においでになったとき、わたしたちはそのことにちっとも気づかず、世の中は相変わらず、自分の楽しみや利益を求めて、目先の事柄に一喜一憂していました。今でもそうです。わたしたちは目の前の悩みや問題や嘆きの事柄に心をふさがれてしまいます。

どうか、そんなわたしたちのために、神さま、あなたがイエスさまを与えてくださっていることを知るようにさせてください。イエスさまがいつも共にいてくださり、神さまの慈しみが世界の上にも、わたしたちの生活の上にも、なお注がれていることを知る者とさせてください。そして、神さまの愛に仕えて、このわたしも、自分たちだけでなく、周りの人たちを思いやり、皆で生きて行くために仕えることができますように。わたしたちのために仕えてくださるイエスさまのお名前を通してお祈りいたします。アーメン。

讃美歌 112番 もろびとこぞりて

黙禱(各自、しばらく心の中で祈ってください)

最後に「クリスマスおめでとうございます！」(全員で)これでプログラムは終わりです。